

MUJINTO

The Alumni Association of Otani University

無盡燈

2009年3月
No.131



大谷大学同窓会

「報じ難き師の恩」

片岡 了先生にインタビュー



本学において、永年にわたり教鞭をおとりいただきました片岡了先生に、尋源館にお越しいただき、お話を伺いました。

先生の学生時代のお話を聞かせてください。

私が大谷大学に入学したのは昭和三十一年（一九五六）です。大学構内は今のようによくさんの建物はなく、学生数も少なく、草木が生い茂っていて、非常にのんびりとした雰囲気でした。

また、大谷大学の先生ではありませんが、『広辞苑』を編纂した新村出先生が近くに住んでおられました。

そしてよく大学構内に散歩をしにいられた。当時、学内には国文学研究室があり、新村先生はふらっと訪れてお話しされていくこともありました。先生は言語学者であるとともに歌人であり、大学の「知進守退」の石碑を歌った和歌もありますよ。

私の一回生の担任はドイツ語クラスで外村完二先生でした。当時は、第二外国語でクラス分けがされており、三回生からそれぞれ希望する分野に分かれたのです。学生生活と言えば、烏丸北大路の角で屋台を出して、毎日、朝と夕方に新聞を売るアルバイトをしていました。アルバイトといっても客が来なければ局全部読みました。けれども一つ問題があって、朝、新聞を売ってからの授業に少しだけ遅れてしまうのです。それで、外村先生に叱られた思い出もありますね。

また、クラブでは工房座という演劇部に入っていました。高島屋の裏あたりにホールがあって、そこで年一回公演をしました。これは非常におもしろくて、三回生まで熱中して続けました。

先生が研究者の道を歩まれることになったいきさつを教えてください。三回生から専門分野に分かれるのですが、私は多屋頼俊先生のゼミに入ります。多屋先生は大変厳しい先生でした。私は四回生の時も演劇部の活動をしようとしていまして、春の公演の準備をしていたのですが、その時たまたま通りかかった多屋先生に「君は卒業して役者にでもなるつもりかね」と聞かれました。そのつもりはないと答えると、「それならすぐにやめなさい。君は勉強するのが好きなのだから、勉強しなさい」といって叱られました。それで私は演劇部から籍を抜いて、卒業論文に取りかかることになったのです。

勉強を続けました。しかし、そのときはまだ研究者としてやっていくという気はありませんでした。

卒業論文では『今昔物語集』の研究をしました。しかし、大学院に入ってから、国文の古典が読めない、すらすらと解釈できないという課題にぶつかり、文法をやってみて、中世語の研究ということになりました。『沙石集』の語学的研究を修士論文の課題として取り組みました。その研究の中で『日本文法の話』という日本語研究にとってもよい書物があり、それを読んで非常におもしろいと思ったのです。その頃から、国語学の研究者としての志をもつようになりました。博士課程に進んで、恵信尼が『無量寿経』を発音通りにひらがなで書いた「かな写経」を研究し、それが雑誌『国語学』に掲載されました。そして、この道を歩むことに決心が固まりました。

教員になられてからのお話を聞かせてください。

文学部でゼミを担当するまでは、長年、短期大学の国文科でクラス担任を受け持っていました。自分が教育する立場になった時、やはりモデルは多屋先生でした。文法を扱う国語学という学問は、語学研究であ

り、文学ではあっても答えがはつきりしているという特色がありますので、答えられない学生に対しては、私の授業は厳しかったと思います。

また、学園紛争の時期はつらかったですね。紛争に対処するために学長の補佐をする事に任じられました。私は何でも学生の言うことを聞くようなことはしなかったもので、学生側から相当きつく批判されました。ただ、私のやり方を受け入れてくれた学生とは、今でも交流があります。

また、大谷大学が、東京の巣鴨からこちらに移って新たに出発する時に、多屋先生が大学歌をお作りになりました。あれは、先生が学生時代に応募して選ばれたと聞いています。しかし、文語調ですから、今の学生には分かりにくい。それで大学から「今の学生に分かるように解説を書いて欲しい」と言われ、説明文をつける仕事をしました。

—現在の関心を教えてください。

私は中世語の研究をテーマとしてきました。戦前の古典の研究は、『古今集』や『源氏物語』などの平安朝のものが中心で、高校などでは平安朝の基準で古典文法を教えてくださいました。しかし、言葉遣いはほとんど変わるものです。中世には中世の言葉の決まりがあります。さすがに

戦前の教育ではまずいということ、戦後まもなく教育が変わっていきました。それでも、平安期に比べて中世文書の量ははるかに多いのです。ですからまだ知られていない言葉や文法がたくさんあります。私は、それらを拾い上げてまとめたいと思っています。それは落ち穂拾いみたいなものですが、そういうようなことをして、少しは人の役に立つようなことをしたいものだと思います。

—最後に現在の大学に対してのメッセージをお願いします。

今、自分が学生だったら、というようなことを考えてみるのですが、今の時代は名の知れた大学や規模の大きな大学がいいように見えます。理工学部や経済学部など、就職につながるような実利のある学部を持っている大学が世間では目にとまるでしょう。しかし、実利を求めようという大学とは違う形の大学はあってもいいと思うし、あるべきだと思えます。ありきたりですが、「人生をいかに生きるか」という問いを、実利とは違うところで考えることが大切だと思います。大谷大学の役割はそこにある。特に最近の社会問題や悲しい事件を見ていると、実利の問題では解決できない問題に今の私た

ちは直面していると言えるのではないのでしょうか。開学以来の理念に誇

りを持って、学生たちには元気に学んで欲しいと思います。

〔略歴〕

一九三五年 北海道に生まれる
一九六〇年 大谷大学文学部卒業
一九六二年 大谷大学大学院修士課程修了

一九六四年 大谷大学助手
一九六七年 大谷大学専任講師
一九七三年 大谷大学助教授
一九八三年 大谷大学教授
一九九四年 大谷大学真宗総合研究所長

一九九八年 博士（文学）
二〇〇一年 大谷大学退職
現在 大谷大学名誉教授

〔著書〕

『大谷大学本『節用集』研究並びに総合索引』

『沙石集の構造』

〔共著〕

『蓮如上人遺文（索引の部）』

『日蓮聖人研究（日蓮聖人の消息の文体）の項』

『浄名玄論（巻第2・巻第8）』

〔論文〕

『沙石集』の研究』

『沙石集の構成と説話』

『蓮如上人の文体』

『佛説阿彌陀經（延書本）の国語史的研究』
ほか論文多数

片岡ゼミの思い出

（京都市総合教育センター） 吉井朗夫

昭和五十五年四月、私が三回生になったときに、片岡ゼミが誕生しました。二回生の基礎講読で先生の人柄に触れていた私は、迷うことなく片岡ゼミの門を叩きました。私の他にも五名の同期生が片岡ゼミを選んでいて、私たち六人は片岡ゼミの第一期生となりました。

片岡ゼミで過ごした思い出はたくさんあります。ゼミでの授業もそうですが、少人数というフットワークの良さで、先生とゼミの皆で、食事だ宴会だよく出かけたことを覚えています。奈良まで遠足に出かけたこともありました。奈良公園で宴を開き、古梅園に墨作りを見学に行ったのです。

そんな折々に語られる片岡節が、私は大好きでした。先生の人間味溢れるお話が、何よりも心に残っています。

片岡先生、どうか健康に留意され、また同窓会で片岡節を聴かせてください。

片岡 了先生へのコメント



あきお 1982年3月卒業
文学科



本部

報告



二〇〇九年度同窓会総会の案内

開催日 二〇〇九年五月十三日(水)
時間 午後一時三〇分
(総会終了後、懇親会)

支部名称変更・

支部長・事務局交代のご紹介

ありがとうございます
よろしくおねがいいたします

〈支部名称変更〉

静岡県

(旧支部名称 静岡)

〈山形支部長〉

織江 祐智

(前支部長 菅生芸宣)

〈静岡県支部長〉

熊谷 法昭

(前支部長 曾我祐賢)

〈富山支部長〉

井口 榮樹

(前支部長 石川正生)

〈福山支部長〉

梅田 休申

(前支部長 窪木憲祐)

2008年度前期卒業式並びに 同窓会新入会員歓迎祝賀会の挙

昨年九月三十日(火)、講堂において二〇〇八年度前期卒業式が執り行われました。博士課程修了一名、修士課程修了一名、文学部卒業二十三名、短期大学部卒業五名が学窓を



巣立ちました。
勤行の後、一人ずつ壇上にて、木村宣彰学長から学位記・卒業証書が手渡されました。その後、学長の告辞に続いて真宗大谷学園を代表して、細川信元専務理事より「本日まで研鑽してきたことをこれからの活躍に活かし、真道を突き進んで欲しい。社会は容易なことばかりではないので、親鸞の教えをよりどころにして、親鸞の教えをよりどころにして、真実を求め続けることを課題にこれからがんばって欲しい。」と、お祝いと励ましの言葉が贈られました。
式典終了後は、会場を多目的ホールに移し、「卒業・修了並びに同窓会新入会員歓迎祝賀会」が催されました。卒業生、父母兄弟、並びに指導教員や同窓会役員と和やかな歓談のひと時を過ごしました。

津村記久子さん

同窓の津村記久子さんが、第一四〇回芥川賞を受賞されました。津村さんは、二〇〇八年から三回連続候補になり、このたびの『ポストスライムの舟』で見事、受賞となりました。「支えてくれたみなさんのおかげ」と感謝され、喜んでおられました。

二月二十日の贈呈式(東京丸の内・東京會館)には、審査員の作家をはじめ、出版社、報道関係者など千三百名余りの方々がお集まりになった中、安原晃真宗大谷学園理事長、木村宣彰大谷大学長も駆けつけ、祝福の言葉を贈りました。



安原晃理事長(右)と木村宣彰学長(左)の祝福を受ける津村記久子さん

芥川賞を受賞!

津村さんの今後一層のご活躍を、応援したいと思います。



大谷大学響流館に掲げられた、受賞を祝福する垂れ幕



受賞作『ボトスライムの舟』(講談社刊)

津村記久子さん

一九七八年 大阪府に生まれる
二〇〇〇年三月 大谷大学文学部・国際文化学科卒業
二〇〇五年 『マンイーター』(筑摩書房)
(「君は永遠にそいつらより若い」に改題)
で第二十二回太宰治賞を受賞
二〇〇八年 『ミュージック・プレス・ユー!!』(角川書店)で第三十回野間文芸新人賞を受賞

第十三回 同窓会ホームカミングデーを開催

学園祭（紫明祭）期間中の十一月八日（土）に同窓会が主催する毎年恒例の「ホームカミングデー」を開催いたしました。退職された先生や専任教員のご出席のもと、全国から約一六〇名の同窓生やご家族などの参加がありました。



会長挨拶

第I部「谷大Walker 2008」では、博綜館屋上での記念撮影の後、参加者はメイン会場の第一会議室で、久しぶりに再会した恩師や旧友と、和やかな懇談の場をもつことができました。また、当日の参加企画である「大学見学ツアー・学内散策」では、「博物館観覧ツアー」「図書館見学ツアー」「人形劇ツアー」「学内散策（NPO法人「尋源舎」



恩師との再会風景

ブース」のいずれかにご参加いただきました。また、当日配布された「学園祭模擬店利用券」を利用し、模擬店にも参加しながら在学生との交流も図られました。

第I部後半の「景品交換会」では、「大学見学ツアー・学内散策」に参加された方々に全国の同窓会役員・各支部からご提供いただいた特産品が贈られ、大変好評でした。さらに、模擬店を利用された参加者の投票により、自灯学寮が模擬店優秀団体として選ばれ、ホームカミングデーの席上で発表されるとともに、翌日の後夜祭において同窓会より表彰され、賞品が贈呈されました。

その後、京都ロイヤルホテル&スパに会場を移し、第II部「懇親会」



語らいの場



桂文鹿氏 落語風景

が開催されました。今回は「同窓生の活躍紹介」企画として、本学卒業生の落語家・桂文鹿氏をお招きして落語「はてなの茶碗」をご披露いただきました。その後、氏を囲んでの歓談が行われ、参加者一同和やかな雰囲気の中、盛会裏に終了いたしました。

第13回 ホームカミングデー（2008.11.8）



比叡山を背に集合写真（大谷大学博綜館屋上にて）

NPO法人尋源舎の支援を得て 「仏教公開セミナー」開催される

二〇〇八年度の同窓会支部活動事業として、札幌・岩見沢・夕張支部、熊本支部、湖南支部がNPO法人尋源舎の支援を得て、夏期巡回講演会を「仏教公開セミナー」として開催しました。

各支部では、会員への呼びかけやポスター（写真）、地域の各紙への広告などにより、多数の市民の参加を得て盛会のうちに終了しました。



NPO法人尋源舎の支援を得て、次年度も継続して「仏教公開セミナー」を行います。開催を希望する支部は同窓会本部までお申し出ください。

■札幌・岩見沢・夕張支部

二〇〇八年七月五日（土）
佐賀枝夏文 大谷大学教授



札幌・岩見沢・夕張支部

■熊本支部

二〇〇八年八月二十六日（火）
織田顕祐 大谷大学教授
「便利な世の中と本当の満足」
（熊本市「熊本全日空ホテル ニュースカイ」）

二〇〇八年八月三十日（土）
木村宣彰 大谷大学長



熊本支部

「こころの取扱い説明書」

（札幌市 真宗大谷派札幌別院
「大谷ホール」）

「真実の救済―凡夫が救われるとはどういうことか―」

（滋賀県守山市「ライズヴィル都賀山」）



湖南支部

同窓会学生支援表彰 「菩提樹賞」が贈られる

二〇〇八年度 同窓会学生支援表彰「菩提樹賞」が、井野口雅子さん、服部恵里さんに贈られました。表彰式は三月十八日（水）、「卒業・修了ならびに同窓会新入会員歓迎祝賀会」で行われ、藤島建樹同窓会会長から表彰状と記念品が贈られました。同窓会が在学生を支援することの制度は、学術、文化、スポーツ、ボランティア活動などの分野で、顕著な成績や多大な成果を収め、大谷大学の発展に貢献した学生、または課外活動団体を表彰するものです。

二〇〇八年度「菩提樹賞」受賞者

◎井野口雅子（文学部国際文化学科・

二〇〇九年三月卒業）

二〇〇七年、カリフォルニア州で開かれたマーチングバンド世界大会「DCIワールド・チャンピオンシップ」に出場し、最も素晴らしい演技力を持つ人に贈られる「Most Outstanding Visual」を受賞。

◎服部 恵里（文学部国際文化学科・

二〇〇九年三月卒業）

源氏物語千年紀を記念して、染織史家・吉岡幸雄氏が出版した『源氏物語』の色辞典』（紫紅社刊）で、五十四帖の各巻名の書を担当。（雅号・服部瑞遷）

母校だより

阿部利洋講師が「日本社会学会第七回奨励賞」を受賞

阿部利洋講師が日本社会学会第七回奨励賞を受賞されました。今回の受賞では、阿部講師の著作『紛争後社会と向き合う―南アフリカ真実和解委員会』（京都大学学術出版会）が高く評価され、「著作の部」奨励賞受賞作品として決定されました。

同書では、平和構築の新たな潮流として注目を集める真実和解委員会の活動が包括的に考察されています。とりわけ社会的な和解に関する独自の分析が、同時代的な紛争の理解を深めるにあたり大きく貢献するものである、という選評をいただきました。

授賞式は、昨年十一月二十三日

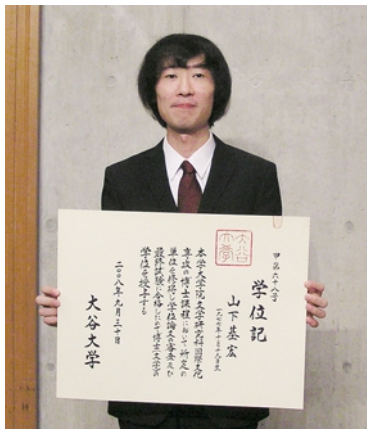


阿部利洋講師

(日)に東北大学で開催された第八十一回日本社会学会大会総会において行われ、授賞式の後、懇親会にて受賞者スピーチがありました。

課程博士の学位授与される

大谷大学院博士後期課程修了者の山下基宏さん(国際文化専攻)に博士(文学)の学位が授与されました。二〇〇八年三月末に提出された学位請求論文の審査が終了し、去る九月三十日(火)に学位授与式が行われました。



山下基宏さん

大谷学会研究発表会を開催

昨年十月二十一日(火)、響流館メディアホールにおいて、大谷学会研究発表会が開催されました。発表

三十分、質疑応答十分という限られた時間内の研究発表でしたが、前もって用意された資料に基づきながら、四名の大谷大学教員が日頃の研究の一端を発表されました。また、学外からの参加者も多く、活発な質疑応答がなされました。今回の発表内容は、『大谷学報』に要旨または論文として掲載される予定です。なお、題目・発表者は次の通りです。



渡部洋准教授

「ツォンカパにおける概念的認識の構造」

福田 洋一 教授

「〈底〉から〈的〉への交代状況からわかること」

渡部 洋 准教授

「言語発達における声と意味」

矢野のり子 教授

「漢訳〈無量寿経〉の思想構造―特に三毒五悪段を巡って―」

山田 恵文 講師

大学院特別セミナーを開催

昨年十月六日(月)から十七日(金)まで、二週にわたり大学院特別セミナーが開かれました。今年度も、昨年に引き続き、マールブルク大学福音主義神学部教授であり、実践神学の研究が専門であるゲルハルト・M・マルティン教授が、大谷大学客員教授としてセミナーを担当されました。

セミナーは「私」を超えてゆくこと…実存神学の中心的テーマについて―浄土真宗との対話の中で―を主題にして、講義と演習(質疑応答・自由討論)形式によって進められました。自明のものとされている「私」という概念の再検討、宗教的文脈では見過ごされがちな「身体」、教えの現実性としての「教会」と「サンガ」、このような様々な問題が互いに結びつけられた形で講義がなされました。

また、聖典・経典などのテクストを解釈する上で、身体の運用をしながら解釈の多様性を模索していく「聖書劇(Bibliodrama)」の手法が取り入れられ、『観無量寿経』の阿闍世の物語を題材にして受講者全員が実演し、経典が観念的だけでなく身体的に経験されることの重要性を体験しました。

母校の動き (2008年9月～2009年3月)

2008年

9/ 9(火)～27日(土)

【大谷大学博物館秋季企画展】

「仏教の歴史とアジアの文化 重要文化財『春記』と紙背聖教—平安貴族の生活と信仰—」

9/24(水) 【宗祖御日勤行・講話】

「本願とは何か」 延塚 知道 大谷大学教授

9/30(火) 【前期卒業証書・学位授与式】

【前期卒業・修了並びに同窓会新入会員歓迎祝賀会】

10/ 4(土) 【教育後援会全国父母兄弟懇談会】

10/10(金)～11/29(土)

【大谷大学博物館特別展】

「聖徳太子伝の世界—えがかれた和国の教主—」

10/11(土) 【自己推薦入試】

10/13(月) 【開学記念式典並びに初代学長清沢満之謝徳法要】

「いのちの輝き」

木村 清孝 国際仏教学大学院大学学長

10/18(土)・19(日)

【大学院秋季試験】

【大学院社会人入試】(18日のみ)

【第3学年社会人編入学試験】(19日のみ)

【第3学年推薦編入〔前期日程〕】(19日のみ)

10/21(火) 【大谷学会研究発表会】

ツォンカパにおける概念的認識の構造

福田 洋一 大谷大学教授

<底>から<的>への交代状況からわかること

渡部 洋 大谷大学准教授

言語発達における声と意味

矢野のり子 大谷大学教授

漢訳<無量寿經>の思想構造—特に三毒五悪段を巡って—

山田 恵文 大谷大学講師

10/28(火) 【宗祖御日勤行・講話】

「世界市民思想をめぐって」

朴 一功 大谷大学教授

10/29(水) 【“人権問題を共に考えよう”全学学習会】

「民族の壁とついたる!—在日コリアンとのつき合い方—」

井筒 和幸 映画監督

11/ 1(土)・2(日) 【指定校制推薦入学制度】

11/ 7(金)～9(日) 【2008年度 紫明祭】

11/ 8(土) 【第13回同窓会ホームカミングデー】

11/15(土)・16(日) 【公募制推薦入試】

11/27(木) 【大学報恩講並びに歴代講師謝徳法要】

「宗祖親鸞聖人の教えに学ぶ—悲喜交流—」

臼井 元成 大谷大学名誉教授

12/ 5(金) 【教育後援会北陸地区父母兄弟懇談会】<富山会場>

12/ 6(土) 【教育後援会北陸地区父母兄弟懇談会】<金沢会場>

12/13(土) 【第3学年推薦編入〔後期日程〕】

【大学院外国人留学生入試】

12/16(火)～2/14(土)

【大谷大学博物館冬季企画展】

「京都を学ぶ みやこの姿」

2009年

1/17(土)・18(日) 【大学入試センター試験利用入試】

1/23(金)～2/1(日)

【同窓会海外研修旅行】

「インド仏跡巡拝とヒマラヤ眺望の旅」

2/ 7(土)～10(火) 【一般入試〔第1期〕】

2/26(木) 【第3学年一般編入学試験】

2/27(金)・28(土) 【大学院春季試験】

3/ 9(月) 【一般入試〔第2期〕】

3/18(水) 【卒業証書並びに学位授与式】

【卒業・修了並びに同窓会新入会員歓迎祝賀会】

また、十月十日(金)には「キリスト教における肉体的存在、社会的・精神的身体—大乘仏教との対話における一つの手がかり?—」という講題で公開講演会が行われ、講演終了後はビッグバレーにてレセプションが開かれ、講師と聴講者との親睦が深められました。

昨年十月十三日(月・祝)、「開学記念式典並びに初代学長清沢満之謝徳法要」が挙行されました。十月十三日を開学の日とするのは、近代の大学として出発した一九〇一(明治三十四)年十月十三日に開校式が行われたことによります。

式典は讃歌、法要に続いて、永年勤続者表彰と記念講演が行われました。今年勤続三十年を迎えられた教

開学記念式典並びに初代学長清沢満之謝徳法要を挙行

また、十月十日(金)には「キリスト教における肉体的存在、社会的・精神的身体—大乘仏教との対話における一つの手がかり?—」という講題で公開講演会が行われ、講演終了後はビッグバレーにてレセプションが開かれ、講師と聴講者との親睦が深められました。



ゲルハルト・M・マルティン教授

昨年十一月二十七日(木)、講堂において、来賓をはじめ学内外から多数参集のもと、大学報恩講並びに歴代講師謝徳法要が厳修されました。宗祖親鸞聖人の絵像と歴代講師の肖像画が掲げられた講堂で、学長の調声により『正信偈』を全員で唱和し、報恩講を勤めました。引き続き歴代講師謝徳法要に移り、『阿弥陀経』の読経のなか、来賓、教職員、学生がそれぞれ焼香を行いました。

大学報恩講を厳修



木村清孝氏

育職員、事務職員合計六名の方々に表彰状と記念品が贈られました。引き続き、東京大学名誉教授で国際仏教学大学院大学学長、日本印度学仏教学会前理事長の木村清孝氏より「いのちの輝き」の講題で講演を頂きました。

また、本年も六名の学生の出仕があり、全学挙げての法要となりました。

法要終了後は、臼井元成名誉教授より「宗祖親鸞聖人の教えに学ぶ―悲喜交流―」の講題で記念講演が行われました。その後、学内食堂に会場を移して小豆粥のお齋を全員でいただきました。

“人権問題を共に考えよう” 全学学習会を開催

昨年十月二十九日（水）、今年度第二回目の“人権問題を共に考えよう” 全学学習会（主催：人権センター、会場：講堂）が、人権教育推進委員会の第二部会（民族差別問題）が中心となって開催されました。

今回の学習会は、映画監督の井筒和幸氏を講師に招き、「民族の壁どついたり！ ―在日コリアンとのつき合い方―」というテーマのもと、寺林脩教授（第二部会長）との対談形式で進められるというユニークな形で行われました。

井筒監督の代表作の一つである映画「パッチギ！」について、撮影に至る背景、テーマに込められた思い、主題歌「イムジン河」にまつわるエピソード等、寺林教授の進行により



臼井元成名誉教授

次々にお話しが展開され、あつという間に二時間が経過しました。作品を通して「民族の壁」について問いかけられる井筒監督の言葉から、約三四〇名の参加者に熱いメッセージが伝わってくると同時に、今回のテーマについて新たに向き合う一つの機会となりました。



井筒和幸監督

特別展「聖徳太子伝の世界―えがかれた和国の教主―」を開催

博物館では、昨年十月十日（金）から十一月二十九日（土）まで、特別展「聖徳太子伝の世界―えがかれた和国の教主―」を開催しました。四つのコーナー（「厩戸皇子とその時代」、「聖徳太子」の誕生、「聖徳太子伝の諸相」、「描かれた『聖徳太子』」から構成され、十世紀に成立した『聖徳太子伝暦』が形成されていく過程や、それにもとづいて制作された絵伝など四十五点の貴重な資料が出品されました。本学博物館として初めて、『日本書紀』『上宮聖徳法王帝説』など国の指定文化財である国宝を四点出品し、来館者の興味を集めていました。

本展覧会にあわせて、四回の講演会が開催されました（十月十一



馬上天子像（大坂・叡福寺蔵）

日（土）東野治之氏（奈良大学教授）「『上宮聖徳法王帝説』の問題点」、十月十三日（月・祝）小山正文氏（同朋大学仏教文化研究所研究顧問）「聖徳太子絵伝と四天王寺」、十一月三日（月・祝）竹部俊恵氏（富山県妙蓮寺住職）「井波別院瑞泉寺伝会の絵解き」（実演）、十一月二十三日（月・祝）豊島修（大谷大学教授）「聖徳太子信仰と民俗」。いずれも多くの方が聴講され、聖徳太子への学びを深めました。

また、展覧会を企画した宮崎健司学芸員によるギャラリートーク四回と、学生ガイドによる解説ツアーを、会期中ほぼ毎日開催して展示の概要をわかりやすく説明するとともに、後期からはさらに音声ガイドの導入もなされました。



聖徳太子絵伝（四天王寺蔵・重要文化財）

2009年4月 大谷大学文学部

教育・心理学科 を開設



仏教を学びの基本とする大谷大学では、人と人との関係性を大事にしています。素直に自分を無にし、こころを開いて向き合う先生。人間を理解し、こどものこころを理解できる、「こころに向き合う教師」の養成を目指して、2009年4月に「教育・心理学科」を開設いたします。

教育・心理学科の4つの特色

☆カリキュラムの特徴

- 人間理解の姿勢と能力を習得
- 参加型・体験型授業を重視
- 「心理学」授業も充実
- 人との関係性を築く能力・技能を養成

☆指導方針

- 学校教育現場の経験者など
15名の専任教員が指導
- 不得意科目も克服
少人数体制で徹底指導

☆サポート体制

- 苦手意識を克服するための
課外講座を開講
- 教職支援センターの設置

☆取得可能資格

- 小学校教諭一種免許状
- 幼稚園教諭一種免許状
- 認定心理士



表彰式の様子

昨年十一月八日（土）、響流館メデアホールを会場に、第五回「全国高校生『人間が大好きです!』表現コンテスト」の表彰式が行われました。このコンテストは、高校生の文化活動支援を目的にKBS京都との共同主催で行われているもので、今回は北は北海道、南は沖縄県から五十作品が寄せられました。

選考の結果、映像作品部門は兵庫県立東播磨高等学校放送部の皆さん、ホームページ部門は沖縄県立具志川商業高等学校の比嘉若菜さんが制作

第五回「全国高校生『人間が大好きです!』表現コンテスト」表彰式を開催

した作品がグランプリに選ばれました。

なお、今回は本コンテストが第五回を迎えたということで、特別企画として制作された作品の紹介も行われました。特別企画としては、京都府立嵯峨野高等学校放送部と大谷大学人文情報学科（松川節ゼミ）に協力いただき、『共通テーマ「Pure（純粹）」の設定のもと、高校生・大学生の感覚では完成作品がどのように違うのか?』ということで、それぞれの作品が放映されました。

当日のゲスト審査員の俳優・西村和彦さんをはじめとして、審査員からさまざまな講評をいただき、作品を制作された高校生の皆さんにとっては大変参考になったことと思われ

ます。上位受賞作品は左記のホームページでご覧いただけます。

<http://www.kbs-kyoto.co.jp/ningendaisuki/>



人事

退職

*依願退職

【教育職員】

加藤 基樹(任期制助教)

二〇〇八年八月三十一日付

福田 恵(任期制助教)

二〇〇八年九月三十日付

【事務職員】

鈴木 美央(総務部)

上林 直子(教育研究支援部)

二〇〇八年十二月三十一日付(各通)

【事務系嘱託】

大伴 博子(教育研究支援部)

二〇〇八年七月三十一日付

大谷大学教員の出版物紹介

◎『ケアのコミュニティー―北タイのエイズ
自助グループが切り開くもの』

田辺繁治 著 岩波書店 刊

(二〇〇八・六) 二二五頁

◎『贖扇記 注釈』

清沢満之 著

大谷大学真宗総合研究所 編集・校注

加来雄之・西本祐攝 編集・注釈

法蔵館 刊

(二〇〇八・六) 二六〇頁

◎『この世を生きる念仏の教え』

一楽真 著

真宗大谷派宗務所出版部 編集・刊行

(二〇〇八・九) 七一頁

◎ [Encyclopedia of the African Diaspora:
Origins, Experiences, and Culture]

Carole Boyce Davies 編

古川哲史 分担執筆
ABC-CLIO (Santa Barbara & Oxford) 刊

(二〇〇八・七) 一〇一〇頁

二〇〇八年度
秋季課外活動結果

【団体成績】

●卓球部(男子)

・関西学生卓球秋季リーグ戦

IV部Aブロック 二位 五勝一敗

●卓球部(女子)

・関西学生卓球秋季リーグ戦

III部Bブロック 三位 二勝三敗

●柔道部(男子)

・京都十一大学親善柔道大会

一部 一位 三勝

●空手道部

・全関西大学空手道選手権大会

II部 八位 一勝一敗

●硬式野球部

・京滋大学野球連盟秋季リーグ戦

I部 三位 七勝四敗

●サッカー部

・関西学生サッカーリーグ戦(後期)

III部Bブロック 四位

五勝二分三敗

●剣道部(男子)

・関西学生剣道優勝大会

一回戦敗退

●剣道部(女子)

・関西女子学生剣道優勝大会

一回戦敗退

●バスケットボール部(男子)

・関西学生バスケットボール

リーグ戦 IV部Aブロック

十位 一勝九敗

●バスケットボール部(女子)

・関西女子学生バスケットボール

リーグ戦 III部Cブロック

四位 四勝三敗

●ソフトテニス部(男子)

・関西学生ソフトテニス
秋季リーグ戦 V部Dブロック

三位 一勝二敗

●ソフトテニス部(女子)

・関西学生ソフトテニス

秋季リーグ戦 VI部Aブロック

四位 三敗

●バレーボール部(男子)

・関西大学バレーボール

秋季リーグ戦 VI部

五位 二勝五敗

●バドミントン部(男子)

・関西学生バドミントン

秋季リーグ戦 IV部Aブロック

一位 五勝一敗

●バドミントン部(女子)

・関西学生バドミントン

秋季リーグ戦 IV部Aブロック

三位 二勝三敗

●アメリカンフットボール部

・関西学生アメリカンフットボール

秋季リーグ戦 III部Cブロック

三位 二勝一分二敗

【個人成績】

●卓球部(女子)

〈春季 京都九大戦〉

シングルス

・第二位 河合 麻友

(文学部国際文化学科 第二学年)

ダブルス

・優勝 岩田 政代

(文学部国際文化学科 第三学年)

佐藤 有夏

(文学部社会学科 第四学年)

●硬式野球部

〈京滋大学野球連盟秋季リーグ戦〉

【最優秀投手賞】

稲葉 尚輝

(文学部社会学科 第三学年)

【首位打者賞】

藤川 圭市

(文学部仏教学科 第三学年)

【新人賞】

桐木 陽介

(文学部人文情報学科 第一学年)

【ベストナイン】

捕手 藤川 圭市

(文学部仏教学科 第三学年)

・外野手 加藤 健太

(文学部哲学科 第三学年)

・指名打者 小林 憲児

(文学部史学科 第四学年)

●陸上競技部

〈京都スポーツ祭典陸上競技大会〉

【男子四〇〇m】

第七位 上田 明範

(文学部社会学科 第一学年)

【男子走り幅跳び】

第八位 神坂 恵行

(文学部真宗学科 第二学年)

・第六位 西村 慈生

(文学部社会学科 第二学年)

●サッカー部

〈関西学生サッカーリーグ戦〉

【得点王】

北村 卓大

(文学部国際文化学科 第三学年)

【アシスト王】

北村 卓大

(文学部国際文化学科 第三学年)

【大会優秀選手賞】

北村 卓大

(文学部国際文化学科 第三学年)

佐武 瑛久

(文学部国際文化学科 第一学年)

以上

教育振興資金(募金)への御礼

大谷大学・大谷大学短期大学部では、教育研究環境の一層の充実を図るために「教育振興資金局」を設置し、募金活動を行っています。大谷大学・大谷大学短期大学部は学校法人として「特定公益増進法人」の認可を受けており、寄付金に対しては税法上の減免措置が受けられます。

二〇〇八年七月一日から二〇〇九年一月三十一日までの間にご寄付いただきました方々の芳名は、次のとおりです。ご支援・ご協力ありがとうございました。厚くお礼申し上げます。

◆件数 一四二件

◆寄付金総額 一〇、三九八、五〇〇円

「教育振興資金寄付者(敬称略)」

相場 行宣	青木 英展	赤松 祐修
浅川 敬郎	朝木 淳昭	麻谷 博
味村 登	天野 義敬	天山 敬信
荒瀬原有之	栗津 俊明	井汲 泰三
池田 典生	池畑 美恵	石黒 正秀
石黒 幸朗	出雲路広称	磯野 恵昭
市原 廣志	稲葉 是邦	井上 辰秀
岩壁千恵子	内田 翼	梅原 敏行
江崎 国昭	江崎 眞一	遠藤 俊睦
太田 秀行	大橋 嘉一	大畑 博
小川 弘美	奥村 安芳	織田 昇
影山 浩	香月 周明	加藤 智
加藤 信行	加藤 博文	金村 正
河合 君枝	川崎 敬子	河田 良三

川端 章夫	川村千恵子	川本 和味
木田 幹人	北風 智勝	北川 寿
北橋 均	久保 謙二	小谷多喜男
小西 哲也	小林 章	近藤 昌丸
佐伯 洋	坂井 俊之	坂手 正尚
佐々木弘英	佐藤 義成	佐藤 智水
下田 和孝	龍山 了祐	田中 清文
谷 哲修	玉置 知文	親跡 宗明
柘植 至	辻 祐岳	辻 義一
綱本 奉弘	寺田 義孝	寺林 正裕
峠 春樹	通山 光夫	戸次 順英
豊田 壽	富房 伸次	中井 賢隆
永治 悦子	中村 恵介	成山 文夫
難波 明則	西岡 健治	西田 文夫
根岸 孝子	野瀬 繁和	橋本 一哉
橋本 義介	長谷岡英信	服部 晃佳
濱崎 晃志	林 伸人	原田 武彦
樋口 吉宗	日高 久志	平出 和明
廣橋 秀司	深谷 和政	藤坂 初裕
藤秀 善昭	本多 恵実	前田 栄子
増田 清子	松見 篤	三浦 勝美
三友 健容	南 健兒	美濃部俊裕
宮谷 信行	宮堂 宏宣	観山 法之
三好 峰子	村居 悟	森 豊治
森 圓	森下千寿留	森原 努
安井 文男	矢田部 信	山根 和男
横山 年数	吉川 久雄	善澤 信成
和田 一馬	渡邊 明美	渡邊 登
匿名「四名」		
(有)石間企画事務所 (株)金剛組		
勝願寺(井上 証)	圓徳寺(岡本 紘)	
南桂寺(奥林 曉)	信行寺(寛 宏海)	
泰正寺(川上 孝道)	速念寺(小島 映潤)	
浄玄寺(櫻井 之貫)	因速寺(武田 定光)	
金光寺(巽 正俊)	空安寺(長岡 宗円)	

仲野良一先生を偲んで

仲野良一先生は、二〇〇八年九月二十七日(土)、九十五歳でご逝去されました。先生の教えを受けた者として、誠に寂しい限りであります。謹んで哀悼の意を表し、お慰びいたします。

先生は、一九五八年四月に大谷大学文学部非常勤講師になられ、十一年間にわたり、近代詩を講義されました。私は一九六三年四月に大谷大学文学部に入學しましたが、先生のご子息仲野良典君とたまたま同級生で、また男声合唱団でも親しくさせていただきました。そういうご縁もあって、翌一九六四年に、近代詩の講義を聴講しました。先生は、近代詩について熱く語られ、興味深く学んだ記憶があります。

一九六九年四月には大谷大学助教に就任され、主として短期大学部国文科で女子学生に対し、熱心に古典・近現代文学を指導くださいました。また教職課程委員も兼ねられ、卒業生が中学・国語教員に採用されるよう尽力いただき、そのお陰で近畿周辺の中学校教員になった卒業生も少なくありません。

私は一九七二年四月に大谷大学文学部助手に採用していただき、先生から学生の指導法を丁寧な伝授いただきました。

先生は、一九七八年三月に退職されましたが、短期大学部教員として九年間、非常勤講師を含めると二十二年間、ご指導くださいました。ご退職されて後も一九九五年三月まで、十七年間非常勤講師を続けられました。合計、三十七年間にわたりご指導たまわり、感謝いたします。

仲野先生は、近代・現代詩が専門ですが、和歌にも造詣が深く、「大谷大学国文学会会報」、「大谷学報」、「文藝論叢」などに多くの論文を掲載しております。

また先生は、仏教讃歌の作詞家として有名です。「みほとけは」・「光はみちて」・「み名にこそ」など、東本願寺出版部刊『讃歌』に先生作詞の歌が収録され、多くの人たちに歌い継がれています。先生は、学生のコンパに必ず参加され、余興に、お得意の「踊り子」をよく披露してくださいました。「さよならもいえず」に始まるあの格調高い歌に参加者一同、心温まる思いがしました。今も、ロマンチストで詩や歌をこよなく愛された先生を思いおこします。私も定年を迎えますが、改めて先生の学恩に感謝いたします。仲野先生、長い期間、本当にありがとうございました。



大谷大学文学科国文学コース教授
石橋 義秀

2009年度前期 大谷大学生涯学習講座のご案内

大谷大学では様々な教養を身につけたい方に、本学の知的資産をベースとした生涯学習講座を開講しています。本学ならではの宗教・信仰を求めていく講座、現代社会をいかに生きるのかをテーマとする講座、京都の文化の奥深さを知る講座など、切り口は多様ですが、共通するテーマは「人間」です。大谷大学の生涯学習講座にご期待ください。(講師の肩書は2009年3月現在のものです。)

開放セミナーのご案内

1	テーマ	大乘仏教のあゆみ 一親鸞の眼を通して⑥ 「真の仏弟子一善導」 <協賛:NPO法人 尋源舎>
	講師	浅見 直一郎(大谷大学教授) / 一色 順心(大谷大学短期大学部教授) 三木 彰円(大谷大学短期大学部講師)
	開講日	5月27日・6月3日・10日・24日・7月1日・8日(水)
	時間	18:00~19:30
	定員	100名
	会場	メディアホール
2	テーマ	本願寺とその事件
	講師	泉 恵機(大谷大学教授)
	開講日	5月15日・22日・29日・6月5日・12日(金)
	時間	18:00~19:30
	定員	100名
	会場	メディアホール
受講料		5,000円(税込)
申込締切		5月8日(金)当日消印有効

5	テーマ	活人剣一柳生新陰流の技と心一
	講師	三宅 伸一郎(大谷大学講師/コーディネーター) / 柳峯 博(柳生新陰流兵法二蓋笠会会長) / 池之側 浩(柳生新陰流兵法二蓋笠会師範代)
	開講日	6月13日・7月18日(土)
	時間	14:00~15:30
	定員	100名
	会場	多目的ホール
受講料		2,000円(税込)
申込締切		6月5日(金)当日消印有効
6	テーマ	幼児期からの食育 一好ましい食生活を追求しよう一
	講師	吉田 陽子(元大谷大学短期大学部非常勤講師)
	開講日	8月1日(土)
	時間	10:00~13:00
	定員	10家族(主に3~6才までのお子様とご家族を対象とします。)
	会場	栄養実習室
受講料		3,000円(税込)
申込締切		7月21日(火)当日消印有効

紫明講座のご案内

1	テーマ	昔話・説話に潜む日本のこころ
	講師	根井 浄(龍谷大学教授/大谷大学非常勤講師/コーディネーター) 齋藤 壽始子(児童文化研究会代表/元大谷大学短期大学部教授)
	開講日	5月12日・19日・26日(火)
	時間	18:00~19:30
	定員	100名
	会場	メディアホール
受講料		3,000円(税込)
申込締切		5月1日(金)当日消印有効
2	テーマ	学校教育はいま、そして、どこへ(教育・心理学科開設記念講座)
	講師	岩淵 信明(大谷大学准教授)
	開講日	6月20日・7月4日・11日(土)
	時間	14:00~15:30
	定員	100名
	会場	メディアホール
受講料		3,000円(税込)
申込締切		6月12日(金)当日消印有効
3	テーマ	地域福祉から考える近年の京都
	講師	志藤 修史(大谷大学准教授)
	開講日	6月1日・8日・15日(月)
	時間	18:00~19:30
	定員	100名
	会場	メディアホール
受講料		3,000円(税込)
申込締切		5月25日(月)当日消印有効
4	テーマ	みやこのうた 一芭蕉と蕪村一
	講師	沙加戸 弘(大谷大学教授)
	開講日	6月4日・11日・18日(木)
	時間	18:00~19:30
	定員	100名
	会場	メディアホール
受講料		3,000円(税込)
申込締切		5月28日(木)当日消印有効

京都学講座のご案内

1	テーマ	西本願寺・東本願寺の歴史と現在の姿(大谷大学・龍谷大学連携講座)
	開講日	6月9日・16日・23日(火)
	時間	13:15~14:45(3回のみ13:15~16:30)
	定員	10名
	会場	龍谷大学大宮学舎
	受講料	REC会員4,400円 一般 6,800円(税込)
申込締切		5月15日(金)当日消印有効 応募者多数の場合は抽選とさせていただきます。 抽選予定日:5月19日(火)
備考		本講座は龍谷大学との連携講座です。この講座の受講生には、今後龍谷大学からも受講案内をお届けいたします。

博物館セミナーのご案内

1	テーマ	はじめて学ぶ古文書読み解き講座
	講師	平野 寿則(大谷大学講師/大谷大学博物館学芸員)
	開講日	5月23日・30日・6月13日・27日・7月11日・25日(土)
	時間	10:00~11:00, 11:10~12:10(1回2コマ) ※5月30日は、宗祖誕生会のため14:00~15:00, 15:10~16:10の開講時間となります。
	定員	30名
	会場	マルチメディア演習室
受講料		12,000円(税込)
申込締切		4月9日(木)必着
備考		当セミナーは多数のお申込が予想されます。応募者多数の場合は抽選とさせていただきますので、その旨あしからずご了承ください。

【詳細のお問合せ】

詳細なパンフレットをご希望の方は、下記までお問合せください。
また受講申し込みの際には、ハガキ、FAX、Eメールいずれかにて、①講座名、②氏名・フリガナ、③郵便番号・住所、④電話番号を明記してください。
〒603-8143 京都市北区小山上総町 大谷大学教育研究支援課 MU係
TEL.075-411-8161(直通) FAX.075-411-8162
E-mail: opensemi@sec.otani.ac.jp

*講座名等は変更になることがあります。各講座の詳細については、教育研究支援課までお問い合わせください。

2009年度博物館開館予定

詳細は大学HPをご覧ください。博物館にお問い合わせください。Tel. 075-411-8483

●春季企画展 大谷大学のあゆみ

大学の前身・学寮の時代

4月1日(水)~5月16日(土)

●夏季企画展

仏教の歴史とアジアの文化

6月2日(火)~8月3日(月)

●秋季企画展

仏教の歴史とアジアの文化
博物館実習生展併催

9月8日(火)~9月26日(土)

●特別展「朝鮮美術の名宝(仮)」10月13日(火)~11月28日(土)

●冬季企画展 京都を学ぶ 12月15日(火)~2010年2月13日(土)



大谷大学バレーボール部OB・OG会 (2008.6.22)

当日は遠方にお住まいの方も参加して下さい、例年になく盛大な会となり、普段話せない方とも親交を深めることができました。

同期会、ゼミ・クラス会、 OB・OG会

恩師を囲んで



大谷大学新聞社OB会 (2008.7.1)

1997年以来呼び掛けを広げつつ、1953～1963年入学OBを中心に本年夏ごろに5回目を計画中。(写真は昨年石川県・山代温泉で)



古田ゼミ同窓会「浄影会」(2008.8.9)

2年ぶりの同窓会。古田先生を囲んで、なつかしいゼミの仲間とともに楽しいひとときを過ごすことができました。



2007年卒業 豊住ゼミ同窓会 (2008.8.2)

当日、体調不良で1名欠席でしたが、近況報告など話したり、笑いたっぷりでとても楽しい時間を過ごすことができました。



自灯学寮33期生同窓会 (2008.8.9)

自灯学寮を卒業して10年。皆それぞれの道を歩んでいます。懐かしい寮生活の思い出話で盛り上がりました。



S60年卒業 渡辺貞磨先生ゼミ同期会 (2008.8.14)

平成20年8月14日(木)、恒例のS60年卒業渡辺貞磨先生ゼミ同期会を開催しました。場所は富小路二条東入の「酒・飯 川とも」。古い佇まいの町家づくりが自慢のお店でした。今は亡き渡辺先生の思い出話をしながら、おいしい料理とおいしいワインを頂きました。

大谷大学剣道部講武会総会 (2008.8.23)

2008年8月23日に剣道部講武会を開催いたしました。追弔会、総会、稽古会、恒例の現役VS OBは、若手OBの強さがめだちました。



道交会総会 (大谷大学柔道部OB・OG会) (2008.8.30)

若いOBの出席を待っています。来年は奥様、お子様連れで是非ご参加ください。

ぼくは、ただ、歩きたかっただけ——。

難病ジストニア。身体の筋肉が収縮し、字も書けず、歩くこともできない状態から、奇跡的に回復した青年の感動の手記。

ISBN 978-4-06-213923-6

たとえば、人は空を飛びたいと思う

大谷大学院生 難病ジストニア、奇跡の克服

難波教行 定価1365円(税込)

〒112-8001 東京都文京区音羽2-12-21 講談社

一京の旅宿 お料理

旅館 井筒安

いづやす

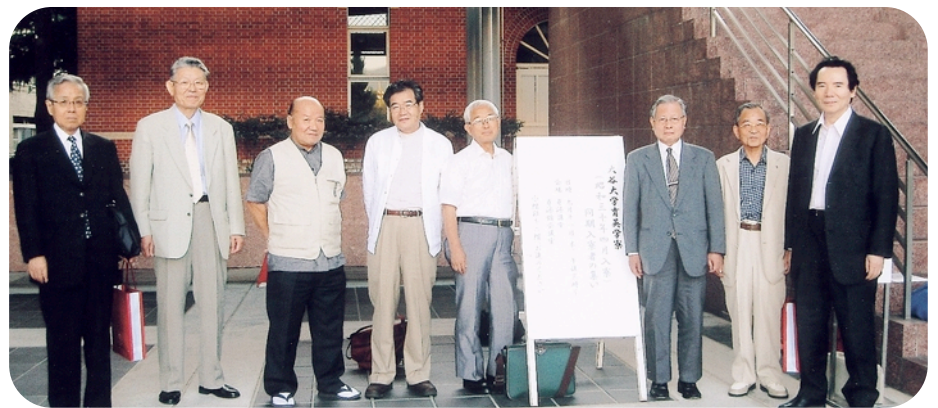
〒100-8156 東京都千代田区東洞院通正面下ル
E-mail: info@izuyasu.com
http://www.izuyasu.com/
TEL: 03-5711-5714 FAX: 03-5711-9153



大谷大学短期大学部 昭和42年卒業同期会 (2008.9.8)
細川行信先生及び同期生の追弔会を開催し、九州阿蘇杖立温泉で同期会を開いた。



昭和34年岩見先生フランス語教室クラス会 (2008.8.30)
クラス会を大阪に於いて開催しました。真宗大谷派難波別院に集合して、クラスの物故者の追弔会法要を本堂にて執り行っていただきました。その後会場を移し、食事をいただきながら歓談の場を持ちました。



大谷大学育英学寮 (昭和30年4月入寮) 同期入寮者の集い (2008.9.11)
母校で、4月に還浄した友を偲ぶ追弔会と、久しい顔も加わって交歓会を行う。懇親会は左阿彌で開き、今、会えた喜びを分かち合った。



混声合唱団OB総会 (2008.9.28)
毎年9月にOB総会を開催しています。年末のOB合同演奏に向け、現役学生たちと一緒にハモりました。



'09年1月大谷大学同窓会ツアーにて(ヒマラヤ山脈遠望)

創業50年 インド仏跡巡拝専門

(株)ビーエス観光 アショカツアーズ

<http://ashoka.co.jp/bs/>

当社は昭和34年に仏教寺院団体参拝機関として創業、以来半世紀、日本全国の各宗派宗務所様・ご寺院様のご支援のもと成長してまいりました。現在はインド・中国・東南アジアなど仏教ゆかりの地への巡拝旅行を専門として、多くの宗教法人・学校法人・個人のお客様に信頼をいただいております。

ビーエス観光

検索





大谷大学専門部（昭和21年9月卒）平成20年同期会（2008.9.29）
今回は京都で開催。大谷祖廟参拝。親鸞聖人入信の地吉水草庵で、物故会員の追悼会を行った後、料亭左阿彌で懇親会を持った。学業や寮生活、学徒動員で過ごした大阪造兵廠での出来事など、思い出話に花を咲かせました。



福島光哉先生喜寿の祝い・福島ゼミ第1期生同期会（2008.9.26）
先生の喜寿を祝い、大学時代などの話は夜遅くまでつきなかつた。翌日は金華山岐阜城に登城しました。



文学部国文学分野卒業生同期会(2008.10.18)
国文学コース卒業生が大谷大学に集い、石橋義秀教授の講演を聴講し、夕刻から学内・ビッグパレーカフェで懇親会を開催し、楽しい時間を過ごしました。



直心行射会 OB総会・懇親会（2008.10.18）
現役の皆様には準備と当日の進行ありがとうございました。卒業生の方は、今年以上の参加をお願いします。

『無盡燈』への広告掲載募集！

会報『無盡燈』（「同期会、ゼミ・クラス会、OB・OG会」報告ページ）への広告を募集しています。
ご協力・ご支援をお願いします。

- ・全1段（タテ6cm×ヨコ18cm） 100,000円
- ・1/2段（タテ6cm×ヨコ8.9cm） 50,000円
- ・1/4段（タテ6cm×ヨコ4.4cm） 25,000円

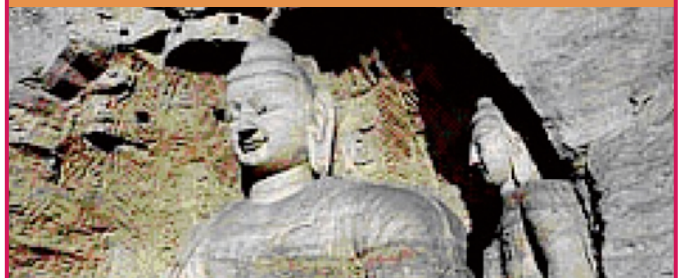
お申し込み・お問い合わせは同窓会本部まで。

TEL 075-411-8124

FAX 075-411-8157

E-mail: kouyu@sec.otani.ac.jp

中国仏跡巡拝も(株)ビーエス観光へ



1名様でのご旅行(中国・インド)もお気軽にお問合せ下さい
フリーダイヤル **0120-102934**



谷雪会（スキー部OB・OG会）総会（2008.11.15）
紅葉シーズンの京都にて第33回総会が行われました。ちょっと懐かしい方から、まだ若手までたくさんの参加がありました。また来年！



1996年入学 幼教Aクラス同窓会（2008.11.8）
卒業後、約10年ぶりの再会でした。子どもを含め25人の参加で、昔の話や近況など賑やかに楽しい時間を過ごすことができました。



第4回 1986年入学大谷大学体育会同期会（2008.12.6）
不惑の年を迎え、4年ぶりに天寅にて開催。きっぱりと不惑なのは主に女性陣で、今回卒業後初めての参加を機に、今後は皆勤を狙うそうです。



2000年幼児教育科卒業 恩師を囲んでの同窓会（2008.11.22）
9年ぶりの再会。学生時代に戻った気分で話に花を咲かせ、楽しい時間を過ごしました。皆それぞれ素敵な年のとり方をしていました。



大谷大学自動二輪同好会 第6回OB会（2008.12.20）
毎度おなじみのOB・OG会が開かれました。会を重ねる度に皆、馴れ親しく、良い顔になってきました。絶えず「再会」と「新しき出会い」を望んでいます♪（家本・田中・伊奈）



自然愛好会OB・OG会（昭和52年～昭和63年卒）（2008.12.6）
20数年ぶりに集まった32名。その年月を忘れてしまう程、話に花が咲き、楽しいひとときを過ごしました。



混声合唱団 創立40周年記念
定期演奏会 (2008.12.20)
創立40周年演奏会でOB合同
ステージをもちました。京都
コンサートホール (大) に掲
げられた団旗はOBにとって、
感慨深いものであります。



書道部OB・OG会 (2009.1.31)
1月31日に本学の食堂において、顧問石
橋義秀先生退職記念の会と書道部OB・
OG会が、現部員も交えて和やかに楽し
く行なわれました。

鄭先生ゼミ2003年卒業生同期会 (2008.12.28)
約1年振りの集合。全員揃うことはできませんでしたが、久々の再会を
喜び、楽しく過ごすことができました。

同期会、ゼミ・クラス会、OB・
OG会を企画される場合は、事前に同窓会本
部へご連絡ください。申請により、連絡用リスト(名簿)・宛
名シールの提供、通信費の一部として開催助成費を補助してい
ます。また、同窓会ホームページ「無盡燈」にも開催告
知・報告を掲載いたします。

同期会、ゼミ・クラス会、OB・OG会等の
開催をお世話いただく幹事さんへ

同期会、ゼミ・クラス会、OB・OG会開催一覧

開催日	会 合 名
2008. 6.22 (日)	大谷大学バレーボール部OB・OG会
2008. 7. 1 (火)	大谷大学新聞社OB会
2008. 8. 2 (土)	2007年卒業 豊住ゼミ同窓会
2008. 8. 9 (土)	古田ゼミ同窓会「浄影会」
2008. 8. 9 (土)	自灯学寮33期生同窓会
2008. 8.14 (木)	S60年卒業 渡辺貞麻先生ゼミ同期会
2008. 8.23 (土)	大谷大学剣道部講武会総会
2008. 8.30 (土)	道交会総会 (大谷大学柔道部OB・OG会)
2008. 8.30 (土)	昭和34年岩見先生フランス語教室クラス会
2008. 9. 8 (月)	大谷大学短期大学部 昭和42年卒業同期会
2008. 9.11 (木)	大谷大学育英学寮 (昭和30年4月入寮) 同期入寮者の集い
2008. 9.26 (金)	福島光哉先生喜寿の祝い・福島ゼミ第1期生同期会
2008. 9.28 (日)	混声合唱団OB総会
2008. 9.29 (月)	大谷大学専門部 (昭和21年9月卒) 平成20年同期会
2008.10.18 (土)	文学部国文学分野卒業生同期会
2008.10.18 (土)	直心行射会 OB総会・懇親会
2008.11. 8 (土)	1996年入学 幼教Aクラス同窓会
2008.11.15 (土)	谷雪会 (スキー部OB・OG会) 総会
2008.11.22 (土)	2000年幼児教育科卒業 恩師を囲んでの同窓会
2008.12. 6 (土)	第4回 1986年入学大谷大学体育会同期会
2008.12. 6 (土)	自然愛好会OB・OG会 (昭和52年～昭和63年卒)
2008.12.20 (土)	大谷大学自動二輪同好会 第6回OB会
2008.12.20 (土)	混声合唱団 創立40周年記念定期演奏会
2008.12.28 (日)	鄭先生ゼミ2003年卒業生同期会
2009. 1.31 (土)	書道部OB・OG会
2009. 2.14 (土)	第4期知真学寮同期会



第4期知真学寮同期会 (2009.2.14)
寮長としてご指導いただいた石橋義秀先生が、大谷大学を退職されることとなり、お祝
いを兼ね、寮監、寮生が京都に集いました。石橋先生お疲れ様でした。

通 信

「母校から学んだ『ご縁』の大切さ」

田村 圭吾

(一九九二年文学部・仏教学科卒業)

京都の料亭の仕事とは料理を提供するだけでなく、地域のさまざまなことに「おもてなしの心」を持って季節感やサービス・空間を提供することです。

その傍ら、仲間の料理人たちとミシュランの星持ちフランス人シェフとの交流事業を行ったり、京都市教育委員会と共に、日本料理を主体とした食育カリキュラムの作成および学校へ出向いての授業などの食育活動をしたり、野菜のソムリエとして各地で公演をしたりすることを通して「人とのご縁」の大切さを知りました。その中で自分の周りに起こることは実は偶然ではなく、必然であり、その必然たる物事に気づき、感謝し自分の糧としていると、次のご縁を得ることがで



き、日々自分が成長できると知りました。しかしこのような考えは何処から生まれてきたのでしょうか？ 今回の執筆のお話は、私が山梨県立博物館の依頼で武田信玄の「甲斐甲陽軍艦」に記載されている「宴の料理」を復元したことを当学の先生がお知りになったからでした。在学時、「他校が総合大学化を進める中で何故大谷大学はそれをしないのか？」と言う生意気な質問をした記憶があります。「総合化を計り、学生が増えれば、大学の校風や気質が薄れ、学生に大谷大学の理念が伝わりにくくなることをよしとしないのだと思う。」とのことでした。確かに今思えば、大谷大学は学生と先生方の距離が非常に近く、アットホームであったことを記憶します。

今回「建学の理念」を読み返してみました。当時は十分に理解できませんでしたが、開校以来一世紀以上にわたり、「人間学」を柱とした、大学の理念がほんの少しかも知れませんが自分の中に生きていることを感じました。そんな母校には、いつまでも人と人とのつながりの大切さを再認識させてくれる存在であってほしいと願います。

(京料理「萬重」若主人)

ご結婚 おめでとうございます

幸せなご家庭を築かれることを
念じ申しあげます。

()内は最終卒業・修了年(敬称略)

※同窓会本部掌握分



- 川田 祐樹 ● 浅野 千尋(一九九〇)
- 竹山 要佑(二〇〇二) ● 古林 祐子(二〇〇三)
- 青木 玲(二〇〇八博) ● 徳永 涼子
- 安井 祥人(一九九六) ● 伊東みさき(二〇〇二)
- 大音 英道(一九九三) ● 松谷 景子(一九九六)
- 渡辺 覚(二〇〇四) ● 前田 幸(二〇〇五)
- 沖 将(二〇〇三) ● 岩崎美帆子
- 安念 邦賢 ● 小林 華恵(二〇〇六)
- 加藤 純一 ● 倉地 敦子(一九九六)

※大谷大学講堂で仏前結婚式をお受けしています。お問
い合わせは、総務課(TEL075-141-0163)まで。

敬 弔

ご生前のご功勞を偲び、
謹んで哀悼の意を表します。
()内は最終卒業・修了年(敬称略)

※同窓会本部掌握分

- 山崎 良淳 大選科(一九四九) 二〇〇七・一・一
- 渡辺 明信 大学部(一九四四) 二〇〇七・四・五

窓

同

「日々成長」

森 振一郎

(一九九八年文学部・社会学科卒業)

「賀茂乃雇汰津（かものこたつ）」今も引きずる在学中の芸名。このお陰で私の人生は大きく変わった。「さあ、今日は何人笑わせてやろうか」を日々のテーマに掲げ、より新鮮なネタを探し求めている。多くの友に囲まれ、笑いの絶えない大谷大学を奇跡的に四年で卒業してから十年、一度の転職を経て、五年前から郵便局が舞台となった。

郵便局長になった以上は地域の発展に寄与し、貢献することが重要不可欠であり、地域の人たちから信頼され愛されてこそ郵便局の存在意義がある。その為に自分ができることは何かを考えているときに、落研（おちけん）の血が騒いだ。なにもいきなり難しいことをしなくと



も、自分のできる範囲のことをすることから始めれば良いのだ。ということでも、思いついたのが寄席。現役の落研メンバーを京都から岸和田に呼び出し、近所の老人ホームへ慰問のあと、町内での寄席という二本立てで実施するようになった。私自身も落語をし、大喜利の司会をするため、久々の舞台で不安もあったが、地域の人たちの温かい笑いにつつまれ、寄席は大成功。第二回、第三回と開催を重ね、今ではお客さんから「今年はいつやるの？」と本当に楽しみにしていただけになるようになった。

郵便局が民営化されてから一年が経った。問題点が山積しており、現在様々な検証がなされているが、地域の人たちから信頼され、愛される郵便局づくりの為に今自分ができることは何か。自分自身に常に問いかけ、日々成長を心がけなければならぬ。今日の私は昨日の私よりきつと素晴らしい。明日はもっと素晴らしく生きることができるようにと。私は、大谷大学で殆ど勉強してこなかったが、その大谷大学で得たものが本当に大きかった。

(大阪府・岸和田岡山郵便局長)

大友 鴻	大専門(九四四)	二〇〇・一・二六
行方 明	文学部(九八二)	二〇〇・二・二三
郡司 成子	短期(九七〇)	二〇〇・四・七
日暮 賢思	大専門(九四五)	二〇〇・七・二
塚本 弘恵	大専門(九四二)	二〇〇・七・六
稲葉 栄覚	文学部(九五三)	二〇〇・七・九
大館 得雄	短期(九五七)	二〇〇・七・九
奥田 芳正	文学部(九六三)	二〇〇・七・九
花園 弘昭	文学部(九五三)	二〇〇・八・二
京極 慶哉	文学部(九六九)	二〇〇・八・五
武田 直文	大専門(九四三)	二〇〇・八・五
佐竹 俊充	文学部(九六八)	二〇〇・八・三
大城 隆	文学部(九六〇)	二〇〇・八・二六
堀 利恵	大専門(九三五)	二〇〇・九・三
佐々木泰隆	文学部(九四九)	二〇〇・九・五
福田 静馬	文学部(九四六)	二〇〇・九・六
井上 鼓	文学部(九五二)	二〇〇・九・八
大久保了一	大専門(九四〇)	二〇〇・九・九
関口 貞通	文学部(九四八)	二〇〇・九・九
藤懸 了雄	大専門(九四〇)	二〇〇・九・三
藤崎 隆文	文学部(九七六)	二〇〇・九・二四
花原 浄憲	文学部(九五〇)	二〇〇・九・七
月田 潤照	修 士(九七二)	二〇〇・九・四
石橋 真悟	文学部(九六六)	二〇〇・九・六
仲野 良一	文学部(九三七)	二〇〇・九・七
村井 俊夫	短期(九六九)	二〇〇・一〇・三
三浦 祐良	文学部(九五五)	二〇〇・一〇・八
杉谷 周	文学部(九四四)	二〇〇・一・一
坂部 達也	文学部(二〇〇八)	二〇〇・二・九
宮城 頴	文学部(九五三)	二〇〇・二・三
達 昌明	文学部(九五二)	二〇〇・一・一〇
本多 知子	短期(九七六)	二〇〇・一・三

大谷大学同窓会海外研修 「インド仏跡巡拝とヒマラヤ眺望の旅」に参加して

三嶋 敏明

(一九八一年文学部・哲学科卒業)

学生時代に、幾度も「インドへ行くこう！」と誘われたが、勇気と経済力不足から断念してきた。社会人になって海外出張の回数を重ねても、インドへ行くというチャンスはそう訪れるものではない。この度、縁あって藤島建樹先生を団長とする、大谷大学同窓会海外研修「インド仏跡巡拝とヒマラヤ眺望の旅」に参加する幸運をいただいた。

今回の研修では、釈尊ゆかりのインド四大聖地、ルンビニ（生誕地）・ブダガヤ（成道の地）・サルナート（初転法輪の地）・クシナガラ



スワヤンブナート(目玉寺)で出逢った尼僧の集団

ラ（涅槃の地）という、オーソドックスな順路と近隣の仏跡を辿る。インド訪問は、既に何度目かという諸先輩も多く、「昔はもつと道が悪くてね：」「思わぬアクシデントがつきものでね：」という回想が聞かれたが、近年整備されたという道路のおかげ（私にはバスの揺れ方が尋常でない）で、順調にスケジュールをこなすことができた。確かに、快適な航空機、チャーターされたバス、ホテルでの食事、清潔なベッドでの宿泊など、トイレの問題を除けば、観光旅行でも十分に成立すると思われる。しかし、インドへの旅は大谷大学の諸先輩方、そして仏教者にとっても特別な意味があることを忘れてはならない。求法の僧侶や研究者が幾度も挑戦し、困難を極めるものであったこと。かの玄奘のヒマラヤ山脈を越える天竺への旅が、いかに命がけであったかに遠く想いを馳せる。物見遊山を兼ねた出張旅行に慣れた私も、この度のインドでは漫然としてられない。想像力をあらん限り膨張させて、世界にまで抜け



クシナガラの涅槃堂にて

るのだ。

環境が許せば旅行中の情況を特設ブログで日々報告しようと考え、小さなコンピュータを持参していたが、「IT先進国インド」と「インド仏跡地」との間には、まだ少し距離があるようだ。それでも旅行中に二軒のホテルは無線LANによるインターネット接続ができて、少しの写真アップロードすることができた。道路は整備され、旅客機は速く、CPUは高速化する。地の果てであった天竺は、もはや誰もが安全に行けるインドになっていく。こうしてグローバル化が加速し、世界が小さくなっていくことは誰にも止められない。驚いたことに仏教聖地はどこも、釈尊に帰依する世界各国の人々にぎわっていた。赤い法衣、黄色い法衣、老いも若きも、僧侶も信者も、

瞑想にふけり、経を唱え、熱心に五体投地を繰り返している。もちろん、私たちのツアーメンバーも、藤島団長や先輩方に導師になっていただき、修行をおこなう。二五〇〇年以上の時を経て、様々な国籍と人種の人々が聖地に集う。あらゆる言語と低い読経が聴こえる中、彼らは何かを想い、ひとりひとりの表情は安らぎに満ちている。ずいぶん遅くなったが自分も仏教を勉強しようと考えた。比較的静かなクシナガラの涅槃堂での修行の後、インド新仏教の少年僧侶が付いてきた。浅学ながら英語で新仏教の情況について、二、三の質問を試みると、人なつっこい笑顔で答えてくれる。彼と握手をしてバスに乗り込む別れ際、少年僧侶に両手を合わす私が出た。



ナーランダ大学跡

ご納入ありがとうございました。

—同窓会費納入領収のご報告— (2008.8.1~2009.1.31)

〈敬称略〉

◎終身会員30,000

〔函館〕
菊地 真一
〔三条〕
朝倉 度
中根 慶滋
〔湖南〕
岩崎 恵子
〔山城〕
大谷七百実
大谷 浩之
長谷岡英信
山崎由紀子
柳山 信
〔阪神〕
稲田 説子
春日 興良
〔山口〕
笠井 良寿
〔鹿児島〕
富重 真直

◎一般会員3,000

〔2006年度分〕
〔飛驒〕
三島 多聞
〔三為会〕
織田 慶雄
三浦 信永
三浦 了信
〔2007年度分〕
〔飛驒〕
三島 多聞
〔三為会〕
三浦 教照

〔2008年度分〕
〔旭川〕
赤松 秀寿
五十嵐信章
岩城 知行
加藤 亨
川原 宣昭
桑谷 芳道
佐々木了泰
塚田 峻
淵上 賢誠
宗隆 教信
山本 英丸
〔青森〕
西山 秀
西山 徹
〔秋田〕
板先 見一
六平 巧己
〔神奈川〕
橋口 幸子
〔富山〕
伊東 千鳥
内村 浩司
河村 誠一
河村 浩
下坂 雄昭
神保 覚央
野田 龍俊
林 了真
森島 憲秀
〔高岡〕
大伴 敏
〔金沢〕
北上しのぶ
吉本 寿寛

〔能登〕
藤谷 勉
〔小松〕
一楽 典次
今川 靖
上杉 豊明
遠州 暁
大谷制以知
大谷 直子
面 隆
柿原 勸
柿原真由美
加藤 輝雄
加藤 宦
神谷 覚
亀田 文夫
亀田 文哉
菊井 朋子
菊井 英信
木本 憲仁
倉元 文雄
佐々木廣行
佐竹 圓修
佐竹 悟
篠原 孜
白城 寿一
鈴義 教彰
関戸 教
田中 昭親
谷 彰英
長崎 祐正
中谷 弼
永山 賢治
永山 了賢
永吉 琢
能邨奏美子
能邨 勇樹

波佐谷 聡
林 拡
林 護
東 臻
東 静陽
日野 靖雄
平田 了悟
広島 朋子
広端 正文
松岡 祐昌
森本 昭栄
山内 哲雄
山内 譲
山口 建治
〔福井〕
出倉 幸枝
〔大垣〕
藤田 卓也
〔飛驒〕
三島 多聞
〔三為会〕
安藤 大生
上野 諦
畝部 俊英
多門 智慶

多門 寿
岡本 立志
岡本 寿丸
織田 慶雄
尾西 朋人
柏樹 利昭
櫻部 等
杉浦 幸子
杉浦 立美
鈴木 磐
多田 尚史
鶴見 栄鳳
野々山幹洋
藤井 智美
藤井 宣丸
藤井 宣行
細川 淳
本多 昭憲
本多 法
三浦 教照
三浦 信永
三浦 長
三浦 了信
宮部 唯能
安田 寛仁

山碕 秀健
山田 麻子
山田 月清
山田 恒宣
〔尾張学友会〕
天野 星雲
黒田 雅明
高山 元智
松岡 嘉郎
〔長浜〕
東野 文恵
藤辺 純子
藤辺 匡文
〔山城〕
川口 観誓
〔丹但〕
廣瀬 德行
〔大阪北〕
井上 美佐
田中 捷介
〔大阪市〕
坂田 文野
察見 孝之
〔大阪東〕
森田 茂実

〔阪神〕
寺川 正順
矢野 信隆
〔和歌山〕
廣部 節
〔鳥取〕
鎌谷 博
〔島根〕
舟谷 幸男
〔岡山〕
藤原 眞理
〔四国〕
光内 真也
〔久留米〕
三池 眞弓
〔2009年度分〕
〔富山〕
源 大寿
〔大垣〕
水谷 慧昭
〔島根〕
井上 晃紀

下記の皆様よりご寄付を頂戴いたしました。
ご芳志に心から感謝申し上げますとともに、
ここに謹んでご報告申し上げます。

札幌支部	關 逸也様	3,000円
富山支部	大伴修一様	3,000円
〃	長等兼昭様	30,000円
小松支部	故宝達立澄様ご遺族	3,000円
飛驒支部	三島多聞様	1,000円
三為会支部	杉浦 圭様	3,000円
尾張学友会	小笠原正士様	3,000円

日本民俗学会年次大会を 開催して

大谷大学は、二〇〇七年十月六日（土）から八日（月）まで、日本民俗学会第五十九回年次大会の会場として、約一千名近くの会員をお迎えしたのである。もとより初めてのことであり、担当の事務職員や、同窓生をふくむ多くの年会事務局の構成員、大学院生・学部生の手助けを得て、無事に三日間の大会を運営することができた。大会を終えてみて、このたびの日本民俗学会年次大会を開催して本当によかったと思う。

というのは仏教民俗学（のちに宗教民俗学）を提唱され、その構築に生涯を捧げられた故五来重先生に因み、一日目の公開シンポジウムのテーマとして「仏教と民俗」が選ばれたことにある。その企画趣旨とは、「仏教民俗学」については、「仏教史」・「文化史」という評価がなされることもある。とはいえ、民俗学の発展に鑑みれば、「仏教民俗学」が再評価されてよいのではなからうか。」という文章に始まり、「方法的な議論に終始する

ことなく、実態を踏まえて「仏教」と「民俗」の関係性を紡ぎ出すよう求めている」という趣旨内容であった。

これまで民俗学研究では、「仏教」と「民俗」の関係についての研究史的蓄積は、必ずしも多くはない。そこに「仏教」と「民俗」の関係についての再評価が必要とされる。「宗教民俗学」という学問についても、「仏教民俗学」を基底として発展した部分があり、「仏教民俗学」の研究史への評価という課題があるだろう（企画趣旨）と思われる。当日の講演内容や三名のパネラーによる研究報告は、いずれも「仏教」と「民俗」の接点について留意し、その多義性の一つひとつを解き明かしている。

また一日目には、本学の学長・木村宣彰先生に最初から最後までご出席を賜わったことに、厚くお礼を申しあげたいと思う。年会事務局の一同は、どれほど勇氣をいただいたか知れない。当日の先生のお姿を拜見して、この大会は必ず成功させねばならないと思ったのである。

大谷大学教授・国史学

豊島修

表紙絵

「白い花」——惠信尼の五輪塔——

41.0 × 27.5 cm 二〇〇九年作

「惠信尼文書」十通は親鸞聖人の最晩年から死後にかけて上越から京都にいる末娘覚信尼に送られた手紙である。大正十年西本願寺の宝庫から発見され、これにより惠信尼の信仰や親鸞や覚信尼への思いが生声として世に出た。聖人没後三年目の消息で惠信尼は「今年死ぬと思いついてますから、生きてるうちに卒塔婆を建ててみたい」と書いている。昭和三十一年に鎌倉期のこの五輪塔が発見され、惠信尼の寿塔として至っている。現在は「えしんの里記念館」が出来その南側にこの美しく魅力的な五輪塔がまつられている。記念館は佐川急便が寄進した建物であるため滋賀県にある佐川美術館とよく似た瀟洒な造りとなっている。近くには開通を控えた北陸新幹線の高架が通っている。館内は惠信尼関係の資料の展示であるが、印刷物などコピーが多くオリジナルの展示がないのは寂しい。

そこから東の山を溪谷沿いに登っていくと山寺薬師と呼ばれる武骨な薬師如来を本尊に釈迦、阿弥陀如来をまつている仏堂がある。この堂は室町期応永年間に焼失したが、現在の薬師三尊は銘があり、焼失後すぐに造立されたことがわかる。この辺りは山寺三千坊と言われ、半僧半農の形をとる三千軒ほどの人々が住していた。越後時代の親鸞はこの如来に詣でたことであろう。何よりも、この辺り板倉地域は惠信尼の実家三善氏の所領地であったからである。山寺薬師に至る途中に人が住んでいる所で、最高の八メートルを越したという豪雪の標があり、古来から豪雪との闘いの中で人が生きてきたことがしのばれる。それにつけても、おそらく食べるため、所領を守るためか、また諸事情で夫親鸞と離れ離れで越後に暮らす惠信尼の、親鸞への深い敬愛が感じられる消息が残っていたことは喜ばしい。

雪国でいち早く咲く春の花は辛夷（こぶし）である。この地方には辛夷が多い。惠信尼のイメージは白い花に思える。春が来れば辛夷が咲き、木蓮が咲き誇る。惠信尼の五輪塔を白い花で荘厳しようと思った。

昌中光亨（一九七〇年文学部卒業）

京都造形芸術大学教授
大谷大学非常勤講師

『無盡燈』の題字について 親鸞聖人の真蹟の坂東本『教行信証』から集字したものです。『維摩經』に「無盡燈というのは、譬えれば一つの燈をもって百千の燈をともしようなものである。冥やみがみな明るくなるが、その明りはついになくなることはない。…説かれた教えのとおりにみずから一切の善いことがらを増しふやす。これを無盡燈となづける」とあり、先輩がともし続けた伝統に輝く燈の名に恥じないことが願われています。

2009年3月20日発行

発行 大谷大学同窓会本部
編集 『無盡燈』編集委員会

〒603-8143 京都市北区小山上総町 大谷大学校友センター内
電話 (075) 411-8124 FAX (075) 411-8157
振替 01020-9-20542

同窓会ホームページ <http://www.mujiinto-otani.org/>

E-mail: kouyu@sec.otani.ac.jp